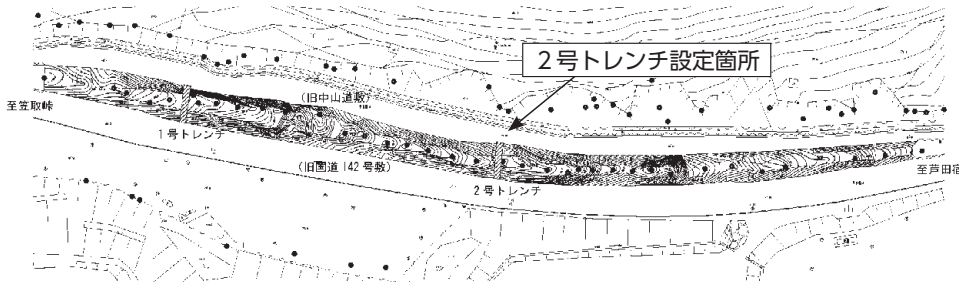


マツ並木の土塁を調べる (後編)

前回の1号トレンチの発掘調査に引き続き、マツ並木にある土塁について、土塁の役割や機能及び時代区分等を解明するために実施した土塁の2号トレンチ発掘調査の概要をお伝えします。



2号トレンチの全景 (土層堆積状況 西面)

2号トレンチの様子

芦田宿寄りの土塁に設定した2号トレンチは、8層に大別することができる。第2～4層では、近現代産物が多く出土しました。昭和42年の国道改良工事の写真でも、土塁のような地形の盛り上がりはなかったもので、出土した産物はこの当時のものといえます。また、現道のレベルより低い箇所から、非常に硬い面を検出し、中山道の原道の可能性も考えられます。



水道管理設部分よりトレンチ内側に硬化した面が確認できた。それは中山道原道の道形の可能性がある。

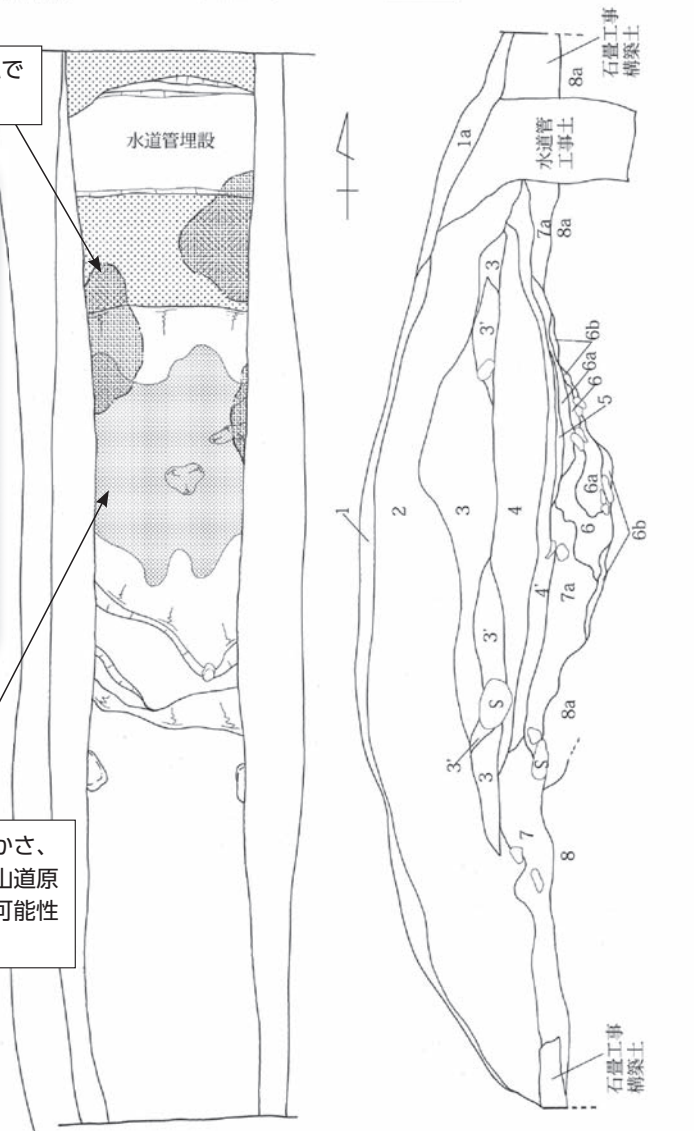
土層説明

- 第1層 (含1a層) 表土層。
- 第2～4層 (含3'層、第4'層) 現代の盛土層。セメントブロックや電柱、ガラス片などが出土。主に昭和42年の道路工事の際に、1号トレンチ側の土塁を模倣したものだろうか。
- 第5層 鉄分の沈殿がみられる砂利混じりの層。
- 第6層 (含6a層、6b層) 水性堆積と考えられる灰褐色で粘性が強い層。炭化物 (松ぼっくり) を含む。
- 第7層 (含7a層) 地山粘土層の漸移層的な層
- 第8層 (含8a層) 粘性しまりの強い、地山となる層



昭和42年国道工事写真

水っぽい粘土質な土。松かさ、砂、丸石が出てきた。中山道原道に付帯する土側溝跡の可能性もある。



2号トレンチ実測図